

## 高木雄三 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦  
副主査 梅 北 善 久  
同 中 村 廣 繁

### 主論文

Cytoplasmic maspin expression is a predictor of poor prognosis in patients with lung adenocarcinoma measuring less than 3cm

(細胞質におけるmaspin発現は3cm以下の肺腺癌患者に対する予後不良因子である)

(著者：高木雄三、松岡佑樹、塩見達志、野坂加苗、武田知加子、春木朋広、荒木邦夫、谷口雄司、中村廣繁、梅北善久)

平成27年 Histopathology 掲載予定

### 参考論文

1. Inflammatory pseudotumor of the lung identified by <sup>18</sup>f-fluorodeoxyglucose positron emission tomography:a patient report

(FDG-PETによって同定された肺炎症性偽腫瘍)

(著者：高木雄三、中村廣繁、三和健、足立洋心、藤岡真治、春木朋広、谷口雄司、堀江靖)

平成20年 Yonago Acta medica 51巻 69頁～72頁

2. A Case of G-CSF-producing invasive apical cancer resected following preoperative adjuvant therapy

(術前補助療法後に切除したG-CSF産生肺尖部浸潤癌の一例)

(著者：高木雄三、中村廣繁、三和健、足立洋心、藤岡真治、春木朋広、谷口雄司)

平成22年 The Thoracic and Cardiovascular Surgeon 58巻 304頁～306頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は3 cm以下の肺腺癌完全切除症例110例のパラフィン包埋ブロックを用いて、腫瘍細胞におけるmaspinタンパクの発現とその細胞内局在を評価し、臨床病理学的因子および予後との相関を後方視的に検討したものである。その結果、細胞質のみにmaspinが強発現している群は、リンパ節転移の存在、微小乳頭亜型の存在と有意に相関し、無病生存期間、全生存期間において独立した予後不良因子であることが示された。

本研究は新知見に富むものであり、その成果は肺癌研究に貢献するとともに学術水準を高めたものと認める。